WS-1　10月10日（土）10:00-13:00

次世代CBTのあり方とは：医師国家試験のCBT化を見据えて

中田祐太（公益財団法人日本医療機能評価機構）、淺田義和・松山　泰（自治医科大学）、久保沙織（東北大学）

2026年2月に厚労省にて医師国家試験等改善検討部会が開かれ、医師国家試験のCBT導入について、問題の作成過程や試験実施の方法、合格基準、問題の非公開化などが論点となった。厚労科研河北班では2021年度より医師国家試験のCBT化に関する研究を継続的に実施しており、その結果を踏まえ、特に以下の論点が得られている。

- CBTの定義：単に「紙媒体の試験をPCで行う」ことに留まらない、出題形式や回答形式
- CBTの準備：試験問題のプール化を念頭においた、良質な試験問題を作成するための方策
- CBTの運営：1万人以上を対象とする試験を効果的・効率的に運用するための方式

本ワークショップでは、厚労科研河北班の成果紹介を行った後、医師国家試験のCBT化を見据えた次世代のCBT国家試験のあり方を検討する。さらに、医師のみならずその他の医療系国家試験への展開も見据え、医療者育成に関わる教員に加え、学生や研修医といった受験者に近い立場の者も含めて、幅広い参加者での意見交換を期待したい。

アソシエイトポイント： A 0.25

対　象　医療系国家試験のCBT化に興味のある医学教育関係者、過去に医師国家試験CBT化のトライアル試験を受けた学生・研修医等、医療者教育に興味がある人

定　員　30名